

2015年名古屋大学博物館スポット展示記録： 鈴木五郎 石と陶器の融合アート

Record of the Nagoya University Museum SPOTLIGHT (2015 series):
Suzuki Goro's Fusion Art of Pottery and Granite

足立 守 (ADACHI Mamoru)

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学 Ph.D. プロフェッショナル登龍門推進室
Program for Leading Graduate Schools "Ph.D. Professional": Gateway to Success in Frontier Asia, Nagoya University,
Furo-cho, Chikusa-ku, Nagoya 464-8601, Japan

場所：名古屋大学博物館2階常設展示室の一角
会期：2015年7月24日～9月5日
主催：名古屋大学博物館

概要

7月24日（金）から9月5日（土）まで、2015年名古屋大学博物館スポット展示「鈴木五郎 石と陶器の融合アート」（図1）が開催され、会期中に4956人の入館者があった。このスポット展示は小牧市にあるメナード美術館（特別企画展 鈴木五郎 土に生きる 土に遊ぶ）とのコラボレーション企画として同時開催されたものである。長年、“人のやらない”創造性あふれる陶芸アートにチャレンジしてきた鈴木五郎氏の作品のうち、名大博物館では花崗岩と陶器の融合作品を中心に7点（図2）、メナード美術館では彼の全分野の作品約170点が展示された。名大博物館の展示品のうち、くりぬいた花崗岩の内面にカラスとカラスウリの絵を描き、その花崗岩を窯で焼いた大きな作品（図2a）だけは、他の作品とは別に玄関サロンで展示を行った。

このスポット展示では、「猿投花崗岩と陶芸粘土を1150℃の窯の中で一昼夜焼いて、花崗岩と陶器の融合作品を作る」という全く新しい陶芸の岩石学的側面を解説するために、以下のパネルを作成し、作品の背後に配置した（図3）。5枚のパネルは「石と陶器の融合アート」を科学する、「花崗岩（御影石, Granite）はどんな石?」、「花崗岩を1150℃の窯の中で焼く」、「加熱前後の花崗岩中の黒雲母と斜長石」、「ちょっと違った視点で花崗岩をみる」であった。



図1. スポット展示
「鈴木五郎 石と陶器の融合アート」のチラシ。



図2. 展示作品. (a) カラスとカラスウリの絵のついた花崗岩の鉢 (大) (49 × 38 × 18 cm). 1150℃で焼かれているので、花崗岩の表面は長石釉をかけたように溶けている. (b) 花崗岩と陶器の融合アートとしての花入 (29 × 19 × 33 cm). (c) 花崗岩の鉢 (小, 漆の蓋付き) (26 × 25 × 15 cm). (d) 花崗岩の鉢 (中) (35 × 29 × 18 cm). (e) 花崗岩と陶器の融合アートとしてのカップ (18 × 10 × 16 cm). (f) 花崗岩に囲まれた人形 (24 × 15 × 29 cm). (g) 花崗岩の花入. 中がくりぬかれているので軽い (26 × 21 × 15 cm). (作品の写真撮影は、鈴木 蘭)



図3. 展示風景.

約5000人の入館者の中には、メナード美術館の様々な作品を見て、名大博物館の作品も見たくなくなり来館したという人が少なくなかった。逆に、名大博物館の展示を見て、図2bのような一般的な陶器とは全く違う作品を見て、陶芸家鈴木五郎はどんな人だろうかと思い、メナード美術館へ足を運んだ人も多かったようである。

なお、鈴木五郎氏は、スポット展初日の7月24日に名大博物館を訪れ、展示を見ながら、花崗岩と陶器の融合アート制作過程や作品に込めたメッセージについて語った(図4)。

関連イベント

- (1) 2015年8月1日(土): ミクロの探検隊 in メナード美術館 (走査型電子顕微鏡観察の出前授業).
参加者: 23名. 2台の走査型電子顕微鏡を使って、小中学生が植物・昆虫・微化石放散虫を観察(図5). 指導: 野崎ますみ・足立守(名大博物館), 協力: 湯川崇・伊藤洋明(日立ハイテクノロジーズ)
- (2) 2015年8月29日(土): 記念対談(鈴木五郎と足立守)「土に生きる 土と遊ぶ」
参加者: 76名



図4. 作品の解説をする鈴木五郎氏.



図5. ミクロの探検隊 in メナード美術館の様子.